

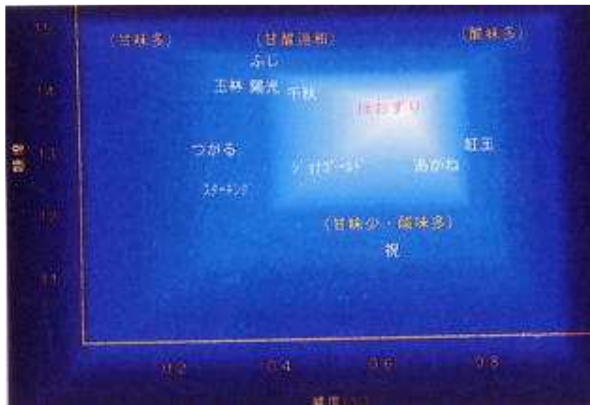
ほおずり (リンゴ)

＝福島県農業総合センター果樹研究所＝

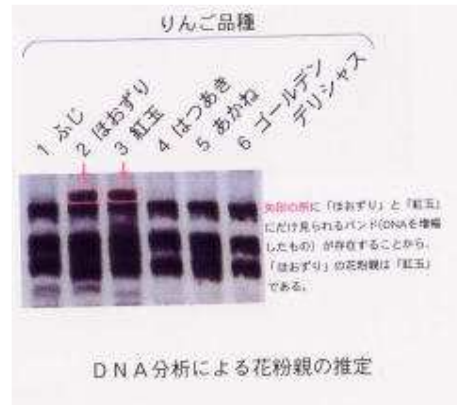
「ほおずり」は、さわやかな甘酸っぱさが特徴で、そのまま食べても調理してもおいしいリンゴです。

福島市では10月中旬に収穫でき、紅玉よりも大きく果実全体が濃紅色に色付きます。果肉は白色で果汁が多く、酸味が強いのが特徴です。

「ふじ」と同じように、良く熟した果実には蜜が入ります。



リンゴ品種別の甘味と酸味



DNA分析による花粉親の推定

育成経過

- 1979年(昭和54年) 「ふじ」の自然交雑実生50固体を養成。
- 1985年(昭和60年) 初結実。
- 1988年(昭和63年) 現地試作試験開始。
- 1994年(平6年) 「福島リンゴ1号」として品種登録出願申請。
- 1995年(平7年) 「ほおずり」と命名。
- 1996年(平8年) 3月に登録番号第5019号をもって品種登録。
- 1997年(平9年) DNA分析により「ほおずり」の両親は「ふじ」と「紅玉」(花粉親)であることが判明(図2)。

「ほおずり」のつくりかた

◆「ほおずり」の来歴

「ふじ」の自然交雑種子から選別した中生種で、遺伝子分析の結果、花粉親は「紅玉」と判明した。

◆「ほおずり」の生育

収穫期は盛りが10月21日で、「ジョナゴールド」とほぼ同時期で、「ふじ」の前に収穫される品種である。

開花時期は「王林」について早く、他品種との交配親和性が高いため、授粉樹としても利用が可能である。

表 「ほおずり」の生育特性と果実品質

品種	発芽期	展葉	開花盛	収穫期			果重 (g)	糖度	酸度 (%)
				始	盛	終			
ほおずり	3/30	4/11	4/30	10/16	10/21	10/22	288	19.5	1.62
紅玉	3/30	4/11	5/3	10/4	10/9	10/14	226	19.0	1.75
ジョナゴールド	3/28	4/9	5/1	10/13	10/17	10/25	377	12.6	1.43
ふじ	3/31	4/12	5/3	11/14	11/16	11/25	375	19.6	1.28

1991年～1993年の平均値

◆果実の特性

- 果実の着色は良好で濃赤色となる。縞は認められるが着色が濃いため目立たない。
- 果重は300～330g程度となり、外観は「あかね」に似るがそれより大きい。
- 果実の肉質は緻密で多汁であり、糖度は13～14度、リンゴ酸は0.6%前後で、酸味をやや感じるが食味は良好である。
- 日持ち性は室温で2週間程度、冷蔵庫では約3ヶ月である。

◆栽培上の留意点

- 果形が扁平になりやすいため、摘果の際にはできるだけ縦長の果実を残す。また、果梗の短い果実は果実が偏円となり品質が劣るので、摘果の際には果梗ができるだけ長い果実を残す。
- 着色が早く、また容易なため早取りになりやすいが、未熟果は酸味が強く食味が劣るため、デンプンが完全に抜け、果肉硬度が13ポンド程度になってから収穫する。
- 樹勢は中程度～やや弱く新梢の発生が少ないため、せん定の際には先刈りや切り返しを行い、新梢の確保に努める必要がある。また、1～5cm程度の短果枝の果実は品質が良い傾向があるので、これらの短果枝をできるだけ多く確保する。
- 樹勢が弱まると扁平な果実が多くなり果実品質が劣るので、樹勢はやや強めに維持する。
- 側果の果実は小さく扁平果となりやすく、つるさびの発生が多いので、できる限り中心果を利用する。